

令和8年度第1回七尾市戦略的復興プラン等推進委員会 議事録

日 時	令和8年6月12日（金）午後2時00分～午後3時40分
場 所	七尾市役所 2階 201会議室
出席者	<p>【委員】出席11名（欠席4名）</p> <p>【七尾市】担当部長及び事務局</p>
委員会における議事内容（質疑応答・意見等）	
委員長	<p>1 開会</p> <p style="padding-left: 20px;">委員長あいさつ</p> <p>2 議事</p> <p style="padding-left: 20px;">（1）委員長及び副委員長の選任について</p> <p style="padding-left: 40px;">（委員の互選により、委員長に飯田委員、副委員長に川淵委員を選出。）</p> <p style="padding-left: 20px;">（2）七尾市戦略的復興プランの検証について</p> <p>七尾市戦略復興プランの検証について事務局から説明を願う。</p>
事務局	<p>（「七尾市復興アクションプランの検証に関する資料」により説明）</p>
委員長	<p style="text-align: center;">－質疑・意見－</p> <p>この議題について、何か質問はあるか。子育て世代の委員からご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>若者が進学・就職で都市部へ流出することは自然であり、無理に引き留めるのは難しい。重要なのは、結婚や子育ての時期に「七尾に戻りたい」と思える環境づくりである。</p> <p>現在、地元企業の人材不足も深刻であるため、帰郷の受け皿となる「魅力的な仕事（企業誘致・既存企業支援）」と「教育環境」の2軸を整え、将来的なUターンを促すまちづくりを進めるべきである。</p>
委員長	<p>SDGsを様々な形で推進されている委員からご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>移住者としての経験から、震災後も能登の自然や魅力は健在であり、住まい</p>

委員長	<p>の確保次第で移住ニーズは十分にあると感じている。単身・少人数には広すぎる家よりコンパクトな住まいが適しており、復興プランにある応急仮設住宅の若者向け住宅への転用は非常に有効な施策である。</p>
委員	<p>準備には時間を要するが、スピード感を持って進めることで、現在支援で入っているボランティアや応援職員などの定着に繋がると考える。</p>
委員長	<p>地域おこし協力隊で活躍された委員からご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>知人が家を売却した際、珠洲市の仮設住宅に住む方が購入された。被災地からは離れたくないが、やむを得ず移住する際、都市部ではなく、せめて同じ能登地域内に留まりたいという奥能登住民の潜在ニーズは高いと感じる。</p>
委員長	<p>七尾市がその受け皿となるためにも、先ほど委員からもお話があった通り、軽微な改修で住める住宅をいち早く修繕し、空き家バンクへの登録を早急に増やす体制を整えていくべきである。</p>
委員	<p>農林水産関係の委員からもご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>農林水産業の再建について、K P I が環境保全型農業の取り組み水田面積となっており、面積の維持が再建に繋がるという論理は理解できるが、実務の現場で最も直面している課題は担い手と雇用の確保である。面積という結果だけでなく、それを維持・継続させるための人材確保や雇用の創出、事業承継の視点も、K P I として組み込んでいく必要があると考える。</p>
委員長	<p>水産業の振興のK P I について、現行の目標値が定置網のみの売上合計となっている点に課題を感じる。定置網はイワシの大漁など特定の豊漁に左右されやすく、一過性の数値になりかねない。また、市内には従事者が多く経営規模の小さい小型漁船や底引き網等の他業種もあり、定置網のみの評価では漁業全体の困窮度や実態を正確に把握できない。そのため、より網羅的かつ詳細に指標を設定すべきである。加えて、今後の5カ年計画が出店やP R といった消費・流通面に偏っている点も見直しが必要ではないか。現在、料理人による団体等の活動をはじめ、食の現場でも水産資源のサステナビリティへの意識が高まっている。単にとる・売るだけでなく、資源を育てる・増やすという資源管理の視点を計画に盛り込むことこそが、能登の漁業の持続可能な発展に繋がると考える。</p>
委員長	<p>事務局から何かあるか。</p>

事務局	<p>先ほど、K P I が現場の実態と乖離しているのではないか、あるいは人材確保や資源管理といったより重要な視点があるのではないか、という貴重な意見をいただいた。本戦略的復興プランのK P I 自体は、令和6年度から令和10年度までの計画期間として既に設定されているため、数値や指標そのものを今から変更することは制度上困難である。しかし、K P I という数字に表れない重要な課題や、真に見るべき現場の実態があるという指摘はその通りである。数値の達成にとらわれず、計画に網羅されていない本質的な課題について、本委員会の中で引き続き活発に議論を深めていただきたい。</p>
委員長 各部長	<p>(3) 七尾市復興アクションプランの進捗状況と見直しについて 次に重点プロジェクトについて事務局から説明を願う。 (「七尾市復興アクションプランの進捗状況と見直しについての資料」により説明)</p>
委員長 委員	<p>各部長からの進捗、進捗状況について何か質問はあるか。 能登島の長崎から鰯目方面への道路が完全復旧したとの報告があったが、関連する危険箇所について確認したい。長崎方面へ降りる分岐点から約1kmの間に、震災後から全く手つかずで道路が半分崩落したままの場所が2カ所存在する。長崎地区にとってはここが唯一の避難路であり、再度災害が発生した際の孤立を防ぐためにも、最優先で修復すべきである。安心・安全の確保に向け、現在の復旧状況と今後の見通しを伺いたい。</p>
担当部長	<p>県道なので、確認し、お答えさせていただく。</p>
委員長 委員	<p>(4) 委員からのご意見・ご提案について 委員からご意見をいただきたい。 被災事業者の再建を支援する中で、人口減少を見据えると、単に元の状態に戻だけでは事業存続は困難だと肌で感じている。そのため、当庫において現在は事業承継と販路開拓に注力している。まずは事業承継の機会創出である。能登への注目度が高まる今を好機と捉え、外部企業とのマッチングによる既存事業の存続に注力していく。市内の老舗旅館の承継などの好事例がある。次に、域外への販路開拓である。地域市場の縮小に伴い不可欠な取り組みだが、地元</p>

委員長	<p>中心だった事業者が単独で外へ魅力発信や商品改良を行うにはハードルが高いのが現状である。既存企業の事業承継や商品開発・販路開拓の分野において、行政および商工会議所・商工会と各種アイデアや補助施策で緊密に連携させていただきたい。</p>
委員	<p>委員からもご意見をいただきたい。</p> <p>プランに示された合計特殊出生率1.39という目標値は、全国平均を上回る高い設定であり、一筋縄ではいかない難しさがあると感じている。私は助産師として能登病院の産婦人科に勤務しているが、現場では初産年齢の上昇を肌で感じており、実際にプレ妊活等で受診される方も増えている。晩婚化・高齢初産化が進む現状において、こうしたプレ妊活や不妊治療への支援は今後ますます重要になる。したがって、現在取り組んでいる事業を今後も継続いただくとともに、さらなる施策の拡充や充実を図っていただきたい。</p>
委員長	<p>委員からもご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>中島地区等の仮設住宅で体調不良者が急増しており、見守り人員が圧倒的に不足している。現状の危機感が社会福祉協議会等へ共有されていないため、地域の民生委員と連携・情報共有できる体制を早急に構築されたい。</p> <p>また、いやしの湯、島の湯の利用料1,000円への値上げ方針に対し、住民から不安の声が上がっている。入浴は被災者の重要な癒やしであり、地元住民が通えなくなる事態を防ぐため、減免措置などの支援策を再検討されたい。</p>
委員長	<p>委員からもご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>7月の港まつりにおける提灯行列の中止や代替案の決定、また花火の中止といった情報が住民へ伝わるのが遅く、子供たちの参加や広告の動きが遅れている。他市町の活発な動きに比べ、七尾市は青柏祭などの集客力があるにもかかわらず、復興イベントへの力の入れ方やPRが弱い。また、少子化対策の評価が低い点に関連し、近隣自治体では住民や子供を対象に体育館等の利用料を無料化している事例がある。本市では通常料金を徴収しているが、無料化等の負担軽減を行うことで、子供や高校生が地域活動を行いやすくなり、将来的な定着に繋がると考える。最後に、先日地元の小学校で断水が発生した際、設置されているはずの備蓄タンクが機能せず、手洗いやトイレが使用できない状況があった。避難所にもなる学校や公民館の備蓄タンクが適切に管理・運用されて</p>

委員長	<p>いるのか、体制の再点検を求める。</p>
委員	<p>委員からもご意見をいただきたい。</p> <p>能登島での公園再開など復興の進捗を実感し心強く思う反面、プランの災害に強いまちづくりのKPIに具体性を欠く点が残念であり、公費解体に伴い地域で過去の断水時に役立った井戸が消失しつつある現状を踏まえ、東京都等の事例を参考に防災井戸の登録・検査補助や雨水タンク設置補助など既存の民間インフラを維持・活用する仕組みを検討すべきであるほか、手取川の油流入事案や大雨災害等のリスクに備え単に元に戻すだけでなく工夫を加えた強靱化を図るとともに、今後の酷暑期を見据えニーズの高い、室内の子供の遊び場の整備進捗についてもあわせて示されたい。</p>
委員長	<p>委員からもご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>公園が随時整備され子どもたちが喜んでいることを大変嬉しく思う一方、他の委員からあった意見同様に室内の遊び場の進捗状況を強く注視しており、今後の整備計画や見通しが決定次第、速やかに住民への情報発信を行っていただきたい。</p>
委員長	<p>委員からもご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>水産業の衰退を防ぐためには、プロである漁師が魚を獲るだけでなく、水産資源を「育てる・守る」取り組みにさらに力を入れるべきであり、従事者の高齢化による難しさはあるものの、意識改革を促すための教育や啓発活動を含めて、持続可能な漁業への転換に向けた支援を強化されたい。</p>
委員長	<p>委員からもご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>人手不足が深刻な一次産業を維持するため、応急仮設住宅を従業員の住まい等として民間事業者に譲渡・活用できる体制の確保を求めるとともに、今後増加が見込まれる農地の引継ぎにおいては、土地だけでなく作業場、機械、販路、技術等を包括的に継承できるよう、農業委員会のみならず市、JA、商工会議所・商工会が一体となった農家版の事業承継スキームを早急に構築されたい。</p>
委員長	<p>副委員長からもご意見をいただきたい。</p>
副委員長	<p>人口・世帯数の減少に伴い民生委員の定数を減らす動きがあるが、担当エリアの拡大による負担増と、住民サービスの低下に繋がるため懸念している。</p> <p>また、新設される復興公営住宅の住民と旧来の住民とのコミュニティ形成には</p>

委員長	<p>課題があり、見守りを担う民生委員のなり手不足も危惧される。これからさらに高齢化が進む中、逆によりきめ細やかな見守り体制が必要である。町会としては、定数を減らすのではなく、むしろ「増やしてほしい」という思いを持っている。</p>
担当部長	<p>今までの提案や意見について執行部からの回答をお願いしたい。</p> <p>事業承継・販路拡大および創業に、現在は能登経済復興広域連携協議会が主体となり、創業支援等の事業を進めることを計画している。引き続き、商工会議所やのと共栄信用金庫等の関係機関と緊密に連携していく。また、いやしの湯、島の湯の件について、現行の条例上の上限料金に対し、中東情勢等による燃料高騰等の影響から施設側より値上げと営業努力の提案があった。入浴支援終了直後の値上げは避けて据え置いてきた経緯がある。今後は上限を大人1,000円、子供500円に改定した上で、一律の値上げではなく平日は安価、土日祝日は高めに設定する二重価格も含め、地元住民が利用しやすい方法を施設側と検討していく。最後に、イベントの報告が遅れたことについて謝罪する。今後、七尾港まつり等の協力依頼に際しては迅速な対応に努める。北國新聞社が主体となる花火大会については、物価・燃料高騰の影響から協議を重ねた結果、規模は縮小するものの、今年度は実施する方向で予定していると聞いている。</p>
担当部長	<p>出産年齢の上昇に鑑み、プレ妊活健診を引き続き推進する。また、国が推進するプレコンセプションケアの動向を注視しながら、市としてできる支援を検討していく。屋内の遊び場開設に向けては、現在どのように実現できるか具体的な検討を進めている。進捗があり次第、改めて報告する。</p>
委員長	<p>最後に委員からお願いしたい。</p>
委員	<p>人口減少が進む能登の復興において、震災前の状態に戻すだけでなく、創造的復興の視点が必要である。次世代の若い技術者が集まり、民間投資を呼び込む高付加価値型の新たなインフラ産業を創出したい。本構想は、人口減少が進む能登の復興において単に元に戻すのではなく、冬でも極めて穏やかな七尾湾の地形的優位性や幕末からの造船の歴史を生かして日本海全域の「広域船舶集中メンテナンスハブ」を構築し、さらに世界的知名度を持つ「ガンダム」の等身大ドックを誘致することで、極限の海洋環境における国家レベルの技術実証</p>

委員長	<p>(DX・GX)を行いながら、能登の造船技術と金沢の精密機械産業を融合させた「オール石川」の体制で約1,200名の雇用創出と若い世代への技術伝承を目指す創造的復興プランであり、その実現に向けて建築・港湾規制の緩和を伴う特区指定や震災復興特別交付税等の財政措置を行政へ要望するものである。</p> <p>提示された新規プロジェクト案は、非常に興味深く面白い内容である。実現に向けては、今後のプレーヤーや組織体制をどう構築していくかが鍵となる。</p> <p>「どうせやるなら楽しくやりたい」という思いのもと、委員会としても様々な形で少しずつ協力・後押しをしていきたい。</p> <p>他に質問がないようなので、本日の会議はこれにて終了とする。会議の進行にご協力いただき感謝する。</p> <p>3. 閉会</p> <p>—終了</p>
-----	--